

先の参議院選挙において、沖縄選挙区では普天間基地の閉鎖・返還と辺野古基地建設反対を掲げる糸数慶子さんが当選し、三たび沖縄の民意を示しました。一方アメリカは、財政難による軍事費大幅削減のために在沖海兵隊のグアム移転経費が捻出できず、アメリカ議会は普天間の辺野古移設は現実的ではないと批判しています。また海兵隊のローテーション配備も始まり、辺野古基地建設の必要性はますます少なくなっています。

今年の3月末に、防衛省は見通しもないまま姑息な手段で沖縄県に辺野古の海の埋立申請を強行しました。それに対して多くの市民が、この豊かな海の損失は人類全体の損失であること、申請の元になった環境影響評価（環境アセス）調査の不備があまりにも多いこと、埋立てに使われる膨大な土砂の採取が起す環境破壊についてのアセスがまったく行われていないことなどの理由で、約3500通にも及ぶ埋立て反対の意思表示をしました。

この埋立申請については、現在沖縄県が審査中です。

知事宛、防衛大臣宛の緊急署名を募っています
署名用紙は下記からダウンロードできます
<http://www.jca.apc.org/HHK/NoNewBases/NNBJ.html>

海陸
にもにも
基地

はいらない

辺野古の埋立てをとめよう11・9集会

去る8月5日、米空軍のHH60ヘリが、沖縄・宜野座村のキャンプハンセン演習場に墜落しました。その後26日にはアメリカ・ネバダ州でオスプレイがまたもや墜落し、機体が炎上して「修復不能な損傷を受け」と海兵隊自身が説明しています。米軍基地がある限り墜落の危険は常にあります。

しかし安倍政権は普天間の固定化はあつてはならないと言いながら、HH60ヘリの墜落原因が不明のまま飛行再開を認めたり、反対する市民を逮捕してでもオスプレイの追加配備を強行したりして、「沖縄の負担軽減のために辺野古に基地をつくらなければならない」と戦争をする国への国家改編をしゃにむに強行しています。

仲井真知事は、来年1月の名護市長選挙を前後して、埋立てに対して承認か不承認かの判断を迫られています。仲井真知事の判断が今後の辺野古の闘いの帰趨を大きく左右する決定的な局面にきています。「基地は県外へ」「辺野古は事実上不可能」といって当選した仲井真知事にはぜひとも埋立て不承認で頑張ってもらわなければなりません。今辺野古の闘いは最大の山場を迎えています。

わたしたちは、
①埋立申請に対する仲井真知事の判断が、早ければ11月にも出されるかもしれない極めて重大な局面にきているということを広く知らせて運動を拡大していく
②知事が埋立申請を不承認にするように求めていく
③政府に辺野古基地建設の断念（埋立申請の撤回）を求めていく
④名護市長選に勝利していく
ために11・9集会を行います。多くの皆さんの参加を訴えます。

2013年9月

辺野古への基地建設を許さない実行委員会

この集会への賛同を募っています

（個人・団体一口1,000円）
郵便振替：00150-8-120796 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック ※通信欄に必ず「11.9集会賛同」と公表の可否を記入して下さい